

**世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書・ニュースレター用報告書（2023 年度採択案件）**

1. 業務の概要	
(1) 案件名	ベトナム・ダナン市における在宅ケアに関わる人材育成と拠点づくり
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
(3) 実施期間	2024 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日
(4) 実施国	ベトナム社会主義共和国
(5) 活動地域	ダナン市全域
(6) 活動概要	
①活動の背景： ベトナムではこれから高齢化が急速に進むことが予測されている。しかし、高齢社会に対する備えは十分とは言えない。特に、寝たきりや認知症、虚弱など要介護高齢者へのケアは家族ケアが中心であって、国が経済発展を遂げる上においてこれから家族、社会に重い課題になっていくと推察される。家族ケアを補う社会的サービスの整備や介護人材の育成が求められる。 ベトナムでは国家の方針として高齢社会に備える施策が推進されつつある。ダナン市においてもダナン市保健局が中心になって地区病院に老年科とデイサービスセンターの開設が計画されている。また、地域の老人会、医療ボランティアなどが地域高齢者の健康促進、生活支援など取り組みが推進されている。これらの事業の推進役を担うのがダナン市保健局に属するダナン市人口家族計画局の「人口家族計画サービスカウンセリングセンター」（以下、「センター」という）である。 センターでは長い年月にわたって地域の妊産婦・乳幼児健診、産婦育児教育、高齢者検診などを行ってきた。今後、急速な高齢化にあたって高齢者対策の最前線に立てるようセンター業務の改革と充実が期待されている。とりわけ①家族ケアを支える居宅サービスの開発、②地域の相談窓口の設置、③地域住民の理解と意識形成、④医療、行政関係者などの人材養成と役割分担などであり、高齢者ケアの拠点としての機能が期待される。 ②活動の目標： 国家並びにダナン市の方針に沿って、私たちが考えた目標は、①日本の地域包括ケアシステムをモデルとして提供すること。②高齢社会の中で大きな問題となる認知症について理解を深める機会をつくることで、高齢者ケアの理念や対応方法の基本を伝えること。そして③少ない事例であるがダナン市で事業が開始されている民間老人ホームをモデルサービスとして支援することであった。そして高齢者ケアの中心となるセンター機能を強化し、病院関係者、家族・地域住民などの人材養成と、施設ケア・在宅ケア（訪問・通所・レスパイト）等のサービスを振興することである。しか	

し、本事業は1年間の短期であることから以上の長期目標を元に、年間目標として、①センター職員の研修、②認知症ケアを軸とする地域ケアの理解促進、③民間老人ホームへの情報提供に絞って活動を行った。

本事業の概要

1. ダナン市の幹部3名を10月20日から26日まで招へいし、岐阜県内の特別養護老人ホーム、認知症デイサービス、名古屋市の福祉用具プラザ、東京都の介護予防フレイル予防推進支援センター等を視察。また来日中に本法人スタッフと共に老年ケアについて学習会を行った。
2. 本法人のスタッフがダナン市に赴き、「認知症セミナー」を開催し、「認知症の理解」「認知症の予防とケア」「日本の社会保障制度」の三つのテーマについて講義を行った。
3. ダナン市内の民間老人ホームの経営者と共に、ダナン市における老年ケアの発展について研究会を行い、来日に際して日本の各種高齢者サービスを案内した。
4. 長期目標の達成に向けてセンターと継続的な協議を行う。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

1. 「招へい研修」

ダナン市保健局長、ダナン市人口家族計画局長、センター副所長の幹部3名を10月20日から26日まで招へいし、岐阜県内の特別養護老人ホーム、認知症デイサービス、名古屋市の福祉用具プラザ、東京都の介護予防フレイル予防推進支援センター等を視察した。また来日中に本法人スタッフと共に老年ケアについて学習会を行った。研修で得た事は12月に現地で開催した「認知症セミナー」にて人口家族計画局長が発表してセミナー参加者に共有された。

2. 「認知症セミナー」

本法人のスタッフがダナン市に赴き、市内の医師・看護師、行政関係者、老人会・医療ボランティアなどを対象に「認知症セミナー」を開催し、「認知症の理解」「認知症の予防とケア」「日本の社会保障制度」の3つのテーマについて講義を行った。出席者は約40名、終了後にアンケートで感想を聞いている。認知症ケアの理解を通して地域で行う老年ケアについて理解を深めた。また、講師として参加した本法人の専門職スタッフは、日々の業務の見直しと国際交流の理解につながったと感想を述べている。

3. 「老人ホーム経営者との懇談」

本法人の専門職が12月3日にダナン市内の民間老人ホーム Thien Tam An を訪問、12月14日にその老人ホームの経営者が来日し、岐阜県内の高齢者総合施設を視察、ベトナムにおける高齢者ケアの将来計画について意見交換を行った。訪問介護、訪問看護、デイサービス等在宅サービスの起業に強い関心を示し、続けて支援することを約した。

4. 「継続的な協議」

長期目標の達成に向けてセンターと2回の対面、SNSによる協議など継続的な意思疎通を図り、認知症セミナーの開催と次年度以降について協議を行った。

（２）実施成果：

１．「招へい研修」

６日間の招へい研修にダナン市保健局の幹部が参加したことで理解が早く活動がスムーズに進むようになった。ベトナムの課題に合わせて招へい視察先を厳選したこと、本法人スタッフと学習会の場をつくり、意見交換を行うことで、認知症に関する理解が深まり、１２月にベトナムで開催した認知症セミナーのプログラムと内容も一気に整っていった。

２．「認知症セミナー」

実施後に参加者にアンケートを実施、５段階評価で「大変良かった」６０％、「良かった」３７．１％で大変好評であった。また、認知症について関心があるかどうか尋ねたところ「大変ある」７４．３％、「ある」２２．９％、ベトナムの認知症ケアと予防にとって何が必要か尋ねたところ「医療関係者の理解」８０％、「家族の支援」７１．４％、「予防活動」６８．６％「地域で支援すること」６８％などとなった。ダナン市内で認知症に絞った初めてのセミナーであったが地域に与えた影響は大きかった。

３．「老人ホーム経営者との懇談」

本法人の専門職が１２月３日にダナン市内の民間老人ホーム Thien Tam An を訪問、１２月１４日にその老人ホームの経営者が来日し、岐阜県内の高齢者総合施設を視察した。その後ベトナムの高齢者ケアの将来計画について意見交換を行った。訪問介護、訪問看護、デイサービス等在宅サービスに強い関心を示し事業計画に取り入れたい意向を伺った。モデルサービスとして継続して事業を応援していきたい。

４．「継続的な協議」

目標の達成に向けてセンターと継続的な協議を行い、認知症セミナーの次年度開催について協議を行った。資金的な目途は立っていないが、本法人には専門職が多く在籍していることから講師を提供することは可能である。人口家族計画局が運営するセンターの研修プログラムの中に定着することを目指したい。

（３）得られた教訓など：

認知症セミナーの内容が初回の開催であったために概要的なものになった。次回はベトナムの認知症患者など事例を取り上げて、支援の方法と一緒に考えるワークショップ形式や参加者による意見交換の時間を多く持つことによって、より実践的なセミナーとなり地域に合った理解が進むものと思われる。

現地の老人ホーム経営者と出会えたことで、民間事業者の動きを知ることができた。民間による高齢者サービスの起業は高齢化に向かって不可欠のものであり、先駆的な取り組みとしてしっかりと支援していきたい。

ベトナムでは政府の方針によって労働社会問題局が保健局に統合される組織再編のニュースを聞いた。労働社会問題局は低所得者・障害者などの支援を行うところであり、医療・保健・福祉の一体的な取り組みが進められるのではないかと期待している。さらに、招へいした人口家族計画局の局長が、福祉問題についても強い意欲を示していることから、総合的な高齢者ケアに期待できる。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

認知症セミナーの開催を継続すること。活動資金の調達については今後検討要するが、日本から出かける講師の渡航費のみを調達し、他の費用は現地主催者の負担にて開催していきたい。3年後には講師も含めて全てのことを地元で実施できるようにしていきたい。大きなカギになるのはダナン市保健局、ダナン市人口家族計画局等の関係者の意識である。また、地区病院や地域保健センター、老人会など地域の皆さんの声である。認知症ケアの普及を通して底上げを図っていきたい。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

今回 JICA 基金事業に参加させていただき、ダナン市は認知症予防に熱意があることが良くわかりました。10月にベトナムから3人の幹部職員を招へいし、特別養護老人ホームやグループホーム、なごや福祉用具センター等を訪問しましたが、その中でも特にデイサービスセンターを訪問した時、自分たちも開設したいと言っていたことが印象に残りました。ベトナムでは家族が認知症の人の介護をすることが主流ですが、認知症に対する知識がなく患者の意思を尊重するという概念がないことも話しており、日本の認知症ケアに強い関心があることもわかりました。

私たちが現地でセミナーを開催した時にも、セミナー後に直接、意見を言ってもらえ、質問に来られる参加者もあり、交流ができたことは良かったと思います。今回の事業に参加させていただき、人口家族計画局長からプレゼントされたアオザイを着て、講師として皆さんの前で話をしたこと、その中で少しのベトナム語で挨拶ができ、貴重な経験をすることができました。今回のセミナーが「国際セミナー」としてWEBニュースにも大きく取り上げられた事にも驚きました。

グハンソン地区病院の老年科を訪問した時、私は昔日本にあった老人病院を思い出しました。皆さん同じパジャマで、ホールで体操や歌を歌う集団リハビリが行われていました。その多くが在宅での生活が可能な方であるように見受けられました。一人ひとりの心と体の状態に向き合い、個々に応じたりハビリやケアを行う環境がベトナムにも早くできるといいなと思いました。特に認知症の人たちは、「できない」という現実と「出来る」という思いに葛藤されています。昔出来ていたことができなくなり不安や混乱の中にあります。言いたいことが上手に言えなくて興奮されたり、忘れていることを知られたくなくて取り繕ったりされます。認知症の人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができたらしと思います。

セミナー前日にダナン市で唯一の民間老人ホームを訪問しました。入所者30名程の小規模であるために行き届いたケアがなされていました。介護保険がないため自費になるため誰でもが入居できる施設ではないようです。設備・環境にはとても良いところでした。老人ホームを運営されている方ともゆっくりお話が出来て、民間人の熱意に感銘を受けて、ベトナムで別の道も発見した気分でした。12月に入ってその経営者を日本に迎え、一緒に高齢者ケアの数々を見学し話し合ったことで新しい支援の道を見つけた思いがします。

(2) 活動の写真



招へい研修で岐南老人ホームを見学



招へい研修でなごや福祉用具プラザ見学



現地活動 ダナン市人口家族計画局打合せ



現地活動 ダナン市保健局長と打合せ



認知症セミナー看板



認知症セミナー会場風景



認知症セミナー講義



プレゼンの資料「認知症の理解」

II. Dự phòng, chăm sóc sa sút trí tuệ

Mục lục

1. Hình dung về lộ trình chăm sóc bệnh sa sút trí tuệ
2. Phát hiện sớm sa sút trí tuệ
3. 5 hoạt động có tính hiệu quả trong dự phòng sa sút trí tuệ
4. Hoạt động dự phòng sa sút trí tuệ
5. Khái niệm cơ bản về chăm sóc sa sút trí tuệ
6. Chăm sóc lấy con người làm trung tâm
7. Cách tiếp xúc cơ bản với người bị sa sút trí tuệ
8. Chăm sóc BPSD
9. Hoạt động hỗ trợ người bị sa sút trí tuệ
10. Hỗ trợ gia đình người bệnh sa sút trí tuệ
11. Nhà nhóm



太田 ひとみ
HITOMI OOTA

1

III. Chế độ an sinh xã hội của Nhật Bản



Mục lục

1. Chế độ an sinh xã hội của Nhật Bản
2. Nguồn tài chính của bảo hiểm chăm sóc
3. Dịch vụ của bảo hiểm chăm sóc
4. Thủ tục tiếp nhận bảo hiểm chăm sóc
5. Cải thiện môi trường khi xã hội già hóa
6. Hình dung về lộ trình chăm sóc sa sút trí tuệ
7. Hình dung về chăm sóc cộng đồng toàn diện

Đại học Chubu Gakuin
飯尾良英
HIO YOSHIHIDE

1

プレゼンの資料 「認知症のケアと予防」



セミナー後の交流

プレゼンの資料「日本の社会保障」



グハンソン地区病院で在宅ケアについて懇談



民間老人ホームの外観



民間老人ホーム経営者と歓談



民間老人ホーム経営者が日本の老人ホーム見学

（３）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

私たち NPO 法人は、国内の高齢者施設の第三者評価と介護保険サービス利用者への情報提供を主な活動にしています。そして今回 JICA 基金を活用させて頂き、日本の高齢者ケアの経験を海外に伝える事業に取り組むことが出来ました。これからベトナムで必要とされる「認知症ケア」にテーマを絞って高齢者ケアの理念と技術を伝えることをめざしました。また、ダナン市人口家族計画局をカウンターパートに選び、人口家族計画局の業務である人口家族計画サービスカウンセリングセンターを拠点として充実することを狙いとししました。幹部の招へい、認知症セミナーの開催、民間老人ホーム経営者との会談を通して、短い期間でしたが多くの種を蒔くことが出来たと自負しています。また、本法人にとっても役員、会員が海外の志を同じくする皆さんと交流が出来たことは初めての経験でしたが、日本の高齢者ケアを見直し再発見することにつながりました。サービスの提供者と利用者の仲立ちをしてサービスの向上と賢い利用者を育てていく事が私たちの目標であり、ベトナムにおいても同じ目標をもって関わっていきたいと思います。世界では分断が進む中、JICA 基金活用事業によって、視野を大きく海外に広げ同じ目標をもって活動する仲間を得たことは、大きな喜びであります。基金に心を寄せて頂きました寄付者の皆さん並びに JICA 中部の皆さんに心から感謝致します。